

経営学部 リフレクションペーパー

2012年度 <前期>

教員氏名 大内 秀二郎
担当授業科目名（曜日・時限） 流通企業戦略論Ⅰ（火曜2限） 商学A（火曜5限） 流通システム論Ⅰ（金曜3限・6限〔2クラス開講〕）
1. アンケート結果に対する総評 前年度授業評価の結果が芳しくなかった商学Aに関して、今年度は10段階評価で平均8.4と比較的良好な結果を得ることができた。各設問項目でも、「授業に対する教員の熱意を感じましたか」（前年度3.9→今年度4.5）、「授業に刺激され授業内容に興味を持つようになりましたか」（前年度3.5→今年度4.1）など大幅な改善がみられた。限られた講義回数の中に多くの内容を盛り込みすぎるといふこれまでの傾向を改め、内容を絞り込んででも、学生の学習意欲の向上と理解の定着を優先させたことが奏功したものと考えている。その他の科目については、流通企業戦略論Ⅰ（10段階評価で平均9.2）、流通システム論Ⅰ（3限クラス8.3、6限クラス8.6）とほぼ例年通りの評価であった。ただし、今年度の流通企業戦略論Ⅰは、昨年までと受講・出席状況が大きく異なるため（カリキュラム変更の影響で、今年度は履修できる学生が就職活動中の4年生のみにほぼ限定されている）、授業評価の結果はあくまで参考値として捉えたい。
2. 授業を行う上で工夫した点、良かった点 商学Aについては、一つのシンプルな“理屈”によって商業の様々な現象が説明できることを理解させることに注力し、受講者に対してもこの講義のねらいを繰り返し説明した。さらに講義の方法も見直し、「学生に質問を投げかける→学生に考えさせる→学生からの解答例をいくつか提示する→理論的な説明を展開する」というサイクルを授業の中にできるだけ採り入れた。その結果、授業を進めるスピードは若干遅くなったもの、学生からは「説明の仕方が分かりやすかった」、「回を重ねるごとに理解が深まった」などの感想を得ることができた。流通システム論Ⅰと流通企業戦略論Ⅰについては、例年通り、新聞記事や映像などの資料も交えながら、理論と実践の両面から流通の全体像を理解できるように心がけた。
3. 今後の改善点 流通システム論Ⅰについて、空調、マイクの音量、教室の規模などの講義環境に関して改善を要望する意見が散見された。また、今年度は全般的に講義中の私語が多いという意見が例年以上に多かった。教壇の上に立って講義をする教員の感覚と、座席に座って講義を聴講する受講者の感覚との際に気を配り、快適な講義環境を維持に努めたい。また、私語をする学生に対しては、講義を遮ってでも注意を喚起する、それでも私語を止めない学生には退室を求める、などの厳正な態度で臨みたい。